

更生保護に尽力した偉人たち

榊原亀三郎は、博徒から一念発起、帰る家のない捨て子や不幸な女性、出所者などを保護する救済所を造った。保護・救済された人は1万5千人。この救済所に保護されなければ食うに困り、また差別に苦しみ、犯罪に走ってしまう人も少なくないはずだ。亀三郎の成した功績は大きい。

亀三郎ばかりでなく、各地には更生保護や弱者救済に尽力された偉人が多くいる。この2ページではそんな人たちを紹介する。むろん、一部である。



金原 明善
きんばら めいぜん
1832~1923

金原明善は大富豪であり稀代の社会実業家でもある。更生保護の面では出所者の保護を目的に「勸善会」を創設。それが日本で最初の本格的な出所者保護施設「静岡県出獄人保護会社」となった。これらが保護司活動の原点である。

亀三郎は金原に強く影響を受けた。榊原弱者救済所の設立と運営は、金原の思想を見倣ったものともいえる。

鴉根の救済所に金原は数回も訪問、また、多くの支援者を亀三郎に紹介した。成岩、板山、南知多にも訪れている。



川村 矯一郎
かわむら きょういちろう
1852~1890

上記の金原明善を動かしたのは川村矯一郎である。

静岡刑務所の副典獄(副所長)だった川村は入所者に更生を熱く説いた。手に負えないワルだった吾助も川村の訓戒に感化され真人間になることを誓ったが、出所後は差別も激しく、入水自殺をしてしまった。

出所後も社会復帰するまでの保護は必要だと知った川村は金原に相談、静岡県出獄人保護会社を創設。副社長となり、出所者の自立を支援した。亀三郎とも昵懇^{じっこん}だった。



留岡 幸助
とめおか こうすけ
1864~1934

留岡幸助は監獄改良事業の先駆者、少年感化事業の父。監獄制度や少年感化制度を米国で学び、内務省の囑託として貧民救済や社会改良事業に取り組んでいた。

感化院(児童自立支援施設)を創設、「更生も大切だが、罪を犯さないようにする非行化防止が大切である」と説いた。

弱者救済の実践活動家の留岡は、亀三郎の救済事業に注目、鴉根に視察に訪れた。内務官僚・留岡の支援は救済所の経営を大いに助けた。